

農委広報

第35号

平成17年度

新庄

編集・発行

平成18年2月1日
新庄市農業委員会

☎0233-22-2111
内線 255・256・257



表紙写真：
農業委員による作況調査（手前）
ボランティア活動（後方）

〈作況調査〉

平成17年8月29日、市内の所要箇所調査を行いました。

当最上地方は、登熟期間全般に気温が高めに経過したものの、刈取期に入り降雨日が続き作業が遅れたこと、また穂いもちの発生も見られたことから県内では最も悪い作況指数99の「やや不良」となりました。

〈ボランティア活動〉

農業委員会委員の改選を間近にした平成17年7月16日、早朝より草刈機を肩に農業委員が参集しました。

かむてん公園脇の升形川が除草清掃ボランティアにより綺麗な河川敷になりました。



《今号の主な内容》

- ◎ 地域の代表 新農業委員24名
- ◎ 会長あいさつ
- ◎ 新農業委員紹介
- ◎ 好評な「まゆの郷」
- ◎ 山形県農業会議会長表彰
- ◎ 新庄市標準小作料

地域の代表、 新農業委員二十四名

平成十七年七月十九日で任期満了となった農業委員会選挙が全国統一選挙として七月三日に告示されました。

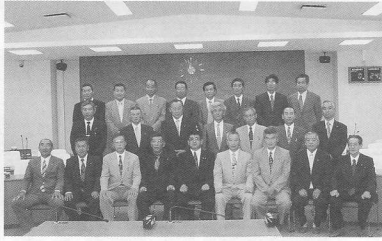
同日、新庄市農業委員会の選挙委員の定数十九名と同数の立候補者の届出により無投票となり、新たな農業委員が決定しました。

また、農業委員会法の改正により新たに土地改良区からの推薦委員が加わり、農業団体等からの選任委員は五名となり、選挙による委員と合わせて二十四名の新農業委員が誕生しました。

七月二十日、市長召集により第一回総会が市議会議場で開催され、市長の召集のあいさつ、そして市議会議長の祝辞を頂戴し、議事に入りました。

会長に星川豊委員（下西山・公選）、会長職務代理者に斉藤純一委員（本合海・公選）が互選され就任しました。

農業委員の任期は三年で、農家の皆さんの農業経営や生活にかかわる、重要でもっとも身近な相談者となります。どうぞよろしくお願います。



会長あいさつ



会長 星川 豊
(下西山・公選)

新年明けましておめでとございます。

昨年は、農業委員統一選挙の年であり、改選により新庄市農業委員会も新たなメンバーでスタートしたところであります。また農業委員各位の互選によりまして引き続き会長の任を努めさせていただくこととなりました。もとより微力ではありますが、これまでの貴重な経験を生かし新たな決意と情熱をもって、地域農業の振興に専心努力いたします所存であります。

ご承知のようにわが国の農業、農村を取り巻く情勢は、国際化の進展の中でWTO農業交渉や二国間の自由貿易協定への対応更には、新たな食料・農業・農村基本計画の策定に伴う担い手の明確化や農地制度の改革など、今後の我が国の農業、農村の将来を左右する重要な局面を迎えております。また、平成十九年度から導入される新たな経営所得安定対策等の大綱も決定され、

認定農業者をはじめとする意欲ある担い手の育成や優良農地の確保並びに耕作放棄地の発生防止等に向けた積極的な取り組みが、従来にも増して強く求められており、農業委員の役割も、ますます重要になってきております。

農業者の代表として皆様の信頼と期待に応え、田園都市・新庄の豊かな自然を守り、活力ある農業と農村を築くために農業委員一丸となって頑張つて参りますので、皆様の一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

農業委員の紹介



会長職務代理者
斉藤 純一
本合海（公選）
八向班

益々厳しい農業環境のなかで、優良農地の確保はもちろん、遊休農地の解消につとめ、集落営農を主体とした経営体の育成が必要と考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。





佐藤喜代志
飛田（公選）
新庄班

変動する農政の中、農地基盤の整備も整った中、地域間競争に勝ち抜き、安定した農業所得の確保を図るため、担い手への利用集積を推進していきたく思っています。



高橋 和彦
梨ノ木（公選）
新庄班

食糧を供給するという重要な使命を担っている農業・農村が低迷の一途を辿っている中、いくらでも農家・農業者の力になればと思いい農業委員になりました。精一杯努力しますのでよろしくお願いいたします。



新庄地区班長
三原 常男
小泉（公選）

年々厳しさを増す農業情勢の中で、農業委員として三期目に入りました。初心に振り返り皆様の為に頑張りたいと思っております。よろしくお願いいたします。



齋藤 順一
大福田（公選）
新庄班

近年、厳しい農業情勢の中で、認定農業者や意欲ある担い手への、農地の利用集積を促進して、安定経営のために一層の努力をしたいと思います。



三原 優一
中川原（公選）
新庄班

今の農業情勢を見ると、米価の値下がりが続く大変な時期です。後継者離れが深刻な問題です。農業委員として出来る事があればと考えております。



小倉 豊
荒小屋（公選）
新庄班

今の農業情勢は年々悪化し、空いている農地を有効利用し農業の基盤をしっかりと築いていくために、我々農業委員が何をすべきかを考え、いい方向に改善できる様頑張っていきたいと思っております。



稲舟地区班長
長澤真治郎
福田（公選）

現在の農地情勢を見ると米価低迷、野菜も安値、遊休農地発生が拡大し、この様な中で若い農業者に魅力を生かす、取り組める様な農地の有効利用を図っていくかなければなりません。地域の声を十分に聞き我々が出来る事を農業の活性化に向けて頑張っていきます。地域の農業振興の為に頑張りたく思います。皆様の御指導宜しくお願い致します。



武田 廣一
JA新庄市
新庄班

毎年話題になっている農政課題、集落農業の活力、水田農業（ビジョン（担い手）認定農業者の育成等々。また農地の無断転用、耕作放棄地等農業委員としての仕事を皆様の為になるようがんばりますので宜しくお願い致します。



栗田 松勇
土地改良区
（選任）
新庄班

この度土地改良区からの推薦により再び委員となり、身の引き締まる思いであります。自まろしく変わる農業情勢又農家所得が減少する中で担い手の育成安心安全の消費者への農産物の提供など数え上げれば足りませんが、何か一つでも出来ればと思います。



高橋 真
角沢（公選）
稲舟班

集落の活性化、担い手の育成が私たちの課題であると思います。その課題をいくらでも解決するよう尽力して参る所存でありますのでよろしくお願いいたします。申し上げます。



吉野 昭男
鳥越（公選）
稲舟班

農業が厳しい時代ですが、農家、農業者が少しでもより良い農業、経営活動が出来るように、勉強し、がんばります。



伊藤 浩榮
柏木山（公選）
稲舟班

年々厳しさを増す農業情勢の中、当地域に於いても農業者の高齢化、農産物の価格の低迷など農業農村を取り巻く情勢が大きく変化しております。農業者と農政を結ぶ委員として頑張りますので宜しくお願いいたします。

農業環境が大転換期を迎えている中、農家の皆さんと共に明日の農業振興を目指し、ごめますので御指導御協力宜しくお願い致します。



井上 勝榮
泉田 (公選)
萩野班

流動する農業情勢、米価の下落の中で農家の力に少しでもなればと思っています。



萩野地区班長
安食 孝一
萩野 (公選)

議会の選出委員として三年振りに農業業務に就くことになりました。農業者・現場、委員会、議会の三者間に見解の双方向性が持たれるように努め、新庄の「百姓」が元気になるよう、ささやかながらサポートしたいと思います。



遠藤 敏信
新庄市議会
(選任)
稲舟班

この度新しく農業委員になり、研修会や調査会、総会をはじめた経験ですが、農業委員会の事が少しづつわかってきました。責任がありこれから地域農業の発展のためがんばっていきたいと思います。



樋口 彦弥
昭和一 (公選)
萩野班

今、農家は高齢化・後継者不足でまだ荒廃農地が増え今後心配です。地域集落営農担い手策を明確にしてやる気のある認定農業者を育て将来安心できる農業経営また村作りに努力していきます。



畠隈 銀蔵
士内 (公選)
萩野班

新庄市の農業の発展と、農業、農家を守るため、一生懸命がんばります。



小嶋 忠昭
黒沢 (公選)
萩野班

この度の農業委員会委員の改選に伴い今期も委員の仕事をさせて頂き誠に有りかたうございます。過去六年間の経験を生かし我郷で生きるための命である、そして食とも言われる農地をしっかりと守り頑張っていきます。宜しくお願い致します。



八向地区班長
佐藤 利美
升形 (公選)

私は、優良農業を確保する措置の強化や、農地と担い手を守り力強い農業をつくる事を考え活動と組織の改革を進め、農業者の声を結集しこれからの農業を考えようとして、希望に満ちた農政の確立と地域農業の振興を図るため、JAと農業委員のかけ橋になる様に入力していきたい。



加藤 久雄
JA新庄もがみ
(選任)
萩野班

十七年度産米は価格減で大変な経営をして行かなければ!!一方で農地集積等を進める政策をふまえて、地方集落農家の形態等農地の相互交換等も考えていかなければいけないと思います。又耕作放棄地のない農業振興も進めなければ!!



中川 久男
山形中央NOSA I
(選任)
萩野班

今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

- 庄司 彰 (仁田山)
- 武田 幸知 (仁間)
- 今田 辰雄 (野中)
- 清水 清秋 (新庄市議会選任)
- 清水 清次 (福宮)
- 金子 清彦 (昭和五)

昨年、農業委員の任期満了により、次の方々が退任されました。多大なる業績に深く敬意を表します。長い間ご苦労様でした。(順不同・敬称略)

退任された 農業委員

年々高齢化、担い手不足により遊休地の発生が多くなっていると思われ、やる気のある担い手による農地の有効利用などで、農業及び農村の活性化に少しでも役にたてればと思っております。



沼澤 正和
長坂 (公選)
八向班

好評な「まゆの郷」



新庄市エコロジーガーデンに平成十四年九月常設された「産直 まゆの郷」は、開設以来、四年目に入り順調に売り上げを伸ばしています。

また訪れたお客様も年々増加し、年間七万人を超える賑わいを見せています。

開設当初は赤字覚悟で取り組み始めたこのことでしたが、好調な売り上げ、そして市民からの好評な反応はうれしい誤算のようです。

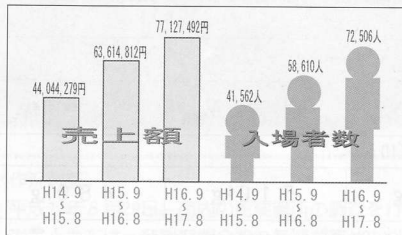
このような評価を得られることとなった背景には、安全安心な農産物の提供は元より、毎月一回以上のイベント実施、また色々なプレゼント企画を行うなど、お客様とともに喜び、そして収穫の感動を分かち合いながら運営してきたことが、お客様から信頼されるようになった大きな要因ではないでしょうか。

中川新一さん(往還)を代表として会員は百十二名(昨年末現在)で八部会(部門・地区等)からなっており、地区別にも市内各地区からパランスのとれた会員構成となっています。

会員は家族ぐるみのお花見や研修を行い、また直売所事務室で、色々な話題を提供し合い、情報を交換しながら歩んできました。

中川代表は「最近では品物作りが上手になった。これも色々な会員の品物を見ながらまた情報を交換しながらやってきたからだと思う。情報交換などから生まれた結果とも言えますね」とおっしゃっていました。

これからはこれまで培われてきたノウハウと、そして何よりもこれまで支えてくれたお客様への信頼をバネに「産直 まゆの郷」が着実に市民の間に根付いていくものと思えます。



農業会議会長表彰

昨年十一月、山形県農業委員会大会において、佐藤喜代志(飛田・公選)委員長が、山形県農業会議会長表彰を受賞されました。

佐藤委員長は、長年に渡り農業委員として貢献、そして現在も活躍されております。

鶴岡市文化会館で行われた大会には、県内各地より千人を超える農業委員等が出席、情勢報告が行われた後、現場からの農政改革に関する要請決議など、四議案が上程され議決されました。



平成17年4月より改定になりました 新庄市標準小作料

標準小作料は、貸し手、借り手の方が適正な小作料を設定するための目安となるように設定しているものです。

従って、標準的な経営を想定して策定しています。実際に農地の貸借を行う場合の小作料は、下記金額を標準にしてあくまでも貸し手、借り手の合意により決定されます。

なお、契約途中での小作料の変更も可能ですので、両者で十分話し合ってください。

この標準小作料は平成17年度より3年間適用されます。(H17. 4. 1～H20. 3.31)

区分	等級区分	10a当たり収量	整理田	未整理田	備 考
田	1 等級	6 0 0kg	22,000円	17,000円	(ほ場整備の取扱い) 土地改良事業は、土地そのものに加えられた改良投資であり、効果は長期間に及びますので生産費に構成するものではありません。 従って土地改良の費用は賃貸人(地主)が負担し、水利費及び運営費は小作人が負担するのが原則ですが、よく協議して決定して下さい。
	2 等級	5 7 0kg	20,000円	16,000円	
	3 等級	5 4 0kg	18,000円	15,000円	
	4 等級	5 1 0kg	17,000円	14,000円	
	5 等級	4 8 0kg	16,000円	13,000円	
普通畑			8,000円		
桑地			6,000円		
草地			3,000円		

※小作料は金納又は物納でも行えます。このことについて問い合わせなどありましたら農業委員会までご連絡ください。

各集落の平均的収量（どれを基準にするかは両者で協議して下さい）

1 等級	2 等級	3 等級	4 等級	5 等級
基本収量 (kg/10a)				
6 0 0kg	5 7 0kg	5 4 0kg	5 1 0kg	4 8 0kg
適応収量範囲 (kg/10a)				
5 8 5kg 以上	5 5 5kg ～ 5 8 5kg	5 2 5kg ～ 5 5 5kg	4 9 5kg ～ 5 2 5kg	4 9 5kg 以下

※なお、農作業賞金については改定はありません。詳しくは地元の農業委員、又は各農協、農業委員会事務局へお問い合わせ下さい。

農委広報編集委員

「農委広報」を編集する広報編集委員になりました。よろしくお願ひください。

委員長
委員

沼 桶 吉 齋
澤 口 野 藤

正 彦 昭 順
和 弥 信 男 一

全国農業新聞

全国農業新聞は農業者年金、税金、農業経営などの的確な情報を提供する農業専門紙です。

- ・毎週金曜日発行
- ・自宅へ直送
- ・1ヶ月の購読料は600円
- ・申し込みは農業委員会へ

農業者年金の現況届は 期限までに提出しよう!

受給者の方に5月末頃農業者年金基金から送付されます。

6月末まで農業委員会に提出してください。

最初の現況届の方は諸名義変更の確認を忘れずに行ってください